



2035 年にむけたビジョン構築

1 億人の女性・少女がつくる、インクルーシブで正義ある世界

私たちの 2035 年への共通目標

2035 年には、1 億人の若い女性と少女が、正義とジェンダー平等を実現し、暴力・戦争のない世界をつくるため権力構造を変革し、すべての女性にインクルーシブで持続可能な YWCA 運動を先導します。

2015 年 10 月 世界 YWCA 総会への提案文書

目次

1. 序文.....	3
2. 背景の分析.....	4
3. 2035年への”変革をもたらす大胆な”目標.....	9
4. 私たちの2035年への目標を達成するために.....	11
4.1 若い女性と少女のエンパワメント、権利、リーダーシップを促進し、そこに投資する.....	11
4.2 世代を超えた運動の中で変革を起こす.....	11
4.3 YWCA運動の持続可能性を構築する.....	11
4.4 世界YWCA運動の計画的アクション.....	12
5. 参加型モニタリング計画.....	12

付録 A: 用語集

付録 B: プロセスと手法

1. 序文

役割

世界 YWCA 会則に記載された以下のビジョンと目的は、YWCA 運動の基盤を形成しています。

世界 YWCA が目指すものは、すべての人に開放された世界であり、そこでは正義・平和・健康・人間の尊厳・自由・環境保護が女性のリーダーシップによって推し進められ持続されている。世界 YWCA はすべての人に等しい価値を認める。

このような世界の実現に向け、世界 YWCA は、ボランティア精神・会員運動・多様性・寛容性・相互の敬愛・誠実さ・責務を掲げ、その達成を目指して進んでいく。(前文)

世界 YWCA の目的は、すべての人々の正義、平和、健康、人間の尊厳、自由、持続可能な環境を達成するために世界中の女性と少女たちの力を結集し、リーダーシップを養成することにある。(第 4 条)

2011 年、スイス・チューリヒで開催された第 27 回世界 YWCA 総会で、世界 YWCA は、未来にむけたビジョン構築(エンビジョニング)のための 4 年間の協議プロセスをおこなうことを決定しました。その目的は、世界 YWCA 運動が、私たちの共通の未来を強く認識させる共通課題を採択し、地方、国、地域、ならびに全世界的取り組みを通じて獲得すべき共通目標を認識することです。各加盟 YWCA は、コミュニティを超えて保持・共有しさまざまなアプローチやスケジュールで発信する、ビジョンを持った課題を打ち出すことを合意しました(2011 年世界 YWCA 総会議事録より)。

この「エンビジョニング」文書は、世界 YWCA 運動のための大胆で変革をもたらす、ビジョンある、実現可能な共通目標の大枠を示すものです。この文書はまた、その目標を達成するために必要な計画・方策の要素を含んでおり、目標達成のため世界 YWCA 運動に求められる変革・変化がどのようなものかを示しています。変化することは簡単なことではないでしょう。私たちそれぞれが、自分の許容範囲を広げる必要に迫られるでしょう。

「私たちの 2035 年への共通目標」は、すべての YWCA がそれぞれの場、背景、資源の範囲の中で貢献する、未来に向けた共通の決意を定義する唯一の共有文書です。目標を示すのみならず、この文書は 2035 年までに世界 YWCA が得たい成果、私たちがどのような組織になりたいか、そして目標を達成するために必要な初期的タイムラインと行動を示しています。

注記: 2035 年にむけたビジョン構築プロセス(エンビジョニング 2035)は、世界 YWCA の前文や目的を書き換えようとするものではありません。むしろ、世界 YWCA 運動がその目的を達成することを可能にするための共通目標を具体的に示すものです。

世界 YWCA 運営委員会は、この目標の達成を支援するための詳細なモニタリング・評価計画を構築します。また、

日常・定期的な実施・報告のための運用枠組みは、世界 YWCA の 4 年計画、および各加盟 YWCA の個別の方策・計画により提供されます。

この文書を、2015 年世界 YWCA 総会での採択のため提出します。

2. 背景の分析

外的背景

私たちの周囲で、世界は急速に変化しています。このことは、平和、正義、健康、自由、環境への配慮ある世界をつくるという世界 YWCA のビジョンと目的にとって、さまざまな新たな機会と脅威をもたらすものです。将来のための計画を考える上で、開発と人間の幸福に影響を与えている幾つかの世界的な傾向を考慮する必要があります。また、世界はこれからも変化し続け、YWCA 運動が効果的で意味あるものであり続けるためには、私たち自身も変化し続ける必要があることを認識します。

- ・ **人口構成の傾向と若者が過半数を占める状況**: 現在の世界人口は 70 億人であり、その中で若者の人口は 18 億人にのぼります。世界銀行の予測では、2035 年には、世界の人口は 3 倍になり、世界中で若者が人口の過半数を占めるとしています。また世界の多くの地域において、若い世代の過半数は女性になります。この動きにより、意志決定のあり方、生産、イノベーション、消費、およびコミュニティの中で必要とされるサービスのあり方などが決定づけられるでしょう。若い女性や少女に関してはさらにそうなるでしょう。知識を持ちエンパワーされ技術を有する若者が、平和、正義、ジェンダー平等、環境への配慮を推進するため大きな役割を果たすことを予測する必要があります。ジェンダー不平等、女性と少女への虐待や周辺化が横行する世界にあって、若い女性と少女の役割を変化させることが必要不可欠です。
- ・ **持続可能な開発目標とジェンダー平等**: 2035 年への目標の中心には、経済・社会・環境の諸分野にわたる 17 の目標と 169 項目の具体的な達成基準からなる「持続可能な開発目標(SDGs)」¹があります。SDGsは、裕福で強力な国々を含めたすべての国が、持続的な開発にむけて行動を起こすことを公約した初めての文書です。

1995 年の北京女性会議から 20 年が経過しました。それにも関わらず、女性の状況に関してすべてのレベルにおいてなされた進歩は限られています。政策協議の中で女性と市民社会に確保される場は急速に縮小しています。北京女性会議ののち立ち上げられた多くの女性団体は、現在、活動を持続させるための資源の限界に直面しています。原理主義と過激主義の増加は、女性が持ち物のように扱われ、女性の体や選択を男性が支配する状況の増加を意味しています。さらに、持続可能な雇用または他の生活維持手段を確保する必要というプレッシャーが、女性たちに時間の貧困をもたらしており、家族・その他の義務との間のバランスを維持しようとする中で、ボランティアに費やすことのできる時間が減少してきています。

¹ 21 世紀の国際社会の目標として貧困削減などを指す「ミレニアム開発目標 (MDGs)」が 2015 年に達成期限を迎えるにあたり、MDGs に代わる今後の目標として国連加盟国が合意した文書。

- ・ **テクノロジー**は、人びとがお互いにどのように関係し、連絡し、つながり、相互に反応し、また運営し、資金調達するか、そのありかたを形作っています。また、特により優位な、力を持つ側の社会において、私たちが知識を共有し、また自分が何に価値を置くかを判断する際、テクノロジーが強い影響を及ぼしています。さらに、ソーシャルメディアがさまざまな障壁を破壊し、仲介者やニュース・メディアなどが持つ力を打ち消していく中、テクノロジーは新たなコミュニケーションのあり方を規定し、ヒエラルキーに挑戦し、さまざまな垣根を低くしています。テクノロジーは、サービスへのアクセスのありかたも塗り替えています。例えば、諸地域 YWCA は、ナショナル YWCA や世界 YWCA を通じることなく、オンラインで、またはソーシャルメディアを通じて、他のレベルの YWCA の情報を得、つながることができるようになりました。また、クラウドソーシングやオンラインのファンドレイジングが使われています。

テクノロジーはさらに、教育、健康情報、カウンセリング、牧会などのサービスへのアクセスのあり方を変化させ、新たな雇用やボランティアの機会をつくりました。このことは、YWCA 運動がどのように活動し、コミュニティ・サービスを提供し、資源を得ていくかという試練をもたらしています。クラウドソーシング／ファンディング、オンライン・ギビングなどの協働による取り組みなどによって、資源の分かち合いに新たな要素が加わっています。同時にその一方で、テクノロジーの発展は、サイバーいじめ、人身売買、深刻なプライバシー侵害など、新たな形態での女性や少女の権利の侵害を生じさせています。階級、地域、年齢によるデジタル・ギャップは、私たちの使命の実現にとって深刻な課題と大きなチャンスと同時に提示しています。

- ・ **気候変動および環境に関する持続可能性**：今日、世界の貧困層の大半は女性であり、また女性は気候変動、自然災害、人為的環境破壊による悪影響のリスクに最も強くさらされています。気候変動の影響は、短期的には地滑り、洪水、ハリケーンなどによって、また長期的には、よりゆっくりした環境破壊によって感じることができます。これらのことは現時点でもすでに、農業、食料安全保障、生物多様性と生態系、水資源、人間の健康、人間の移住・移動のあり方など、さまざまな重要な要素に影響を及ぼしています。女性たちは、経済的、政治的、社会的障壁によって声が届きにくいいため、女性がこれらの影響に対応する力はさらに限定されています。
- ・ **武力紛争、テロリズム、脆弱な統治**：武力紛争や占領、民族的暴力、軍事的抑圧、テロリズム、脆弱な統治の激化、複雑化は、女性、家族、コミュニティに対して破壊的な影響を及ぼし続けています。核兵器および原子力技術の悪用の可能性、生物兵器ならびに無人戦闘機（戦闘ドローン）は、さらなる脅威となっています。自然資源や、経済的資源が違法に搾取されるとき、それはさらなるストレスと暴力をもたらし、それはしばしば女性に精神的・肉体的打撃をもたらし、あるいは性暴力として襲いかかります。多くの場で、宗教・信仰が、危機的状況と暴力をさらにおり立てる形で操作され、悪用されています。世界 YWCA は、かねてより、女性・平和・安全保障に関する国連安保理決議 1325 号の履行に力を尽くし、すべての人に平和と正義がもたらされる世界を共につくるため行動することを決意しています。
- ・ **政府、市民、資本の役割の変動**：ポスト 2015 開発目標は、開発および人権と正義へのアプローチを推し進める上で起きている変化を鋭く明示しています。各国政府が、ますます経済的／社会的変革を可能にする環境や政治的枠組みを構築するよう促されている一方、民間セクター、企業および民間財団もまた、開発分野で重要な主体となってきています。諸機関からの資金提供が減少する中、市民社会、ならびにその他の非営利市民社会組織のスペースは狭まり、提供される資金は具体的なプロジェクトに紐づけられる傾向が

強まっています。この状況は、多くの団体の持続可能性を脅かしており、YWCA 運動が生き残るためには、自らの限定的な得意分野、他と比較した上での強みのある部分に注力する必要があることを示しています。諸々の主体の役割が変動する中で、私たちが生き抜くためには、運動の立ち位置を見直すことが必要不可欠です²。

- ・ **信仰と宗教の役割**: 開発・人道の両分野において、コミュニティ・サービスを提供する信仰に基盤を置く団体の役割は変動しつつあります。提供されるサービスは、教育プログラム(学校、大学、また礼拝の場を学びと知識共有の場にする事による)から、医療サービス、水・衛生の確保、また弱い立場に置かれ疎外された人びとに対する伝統的な牧会まで、多岐にわたります。同時に、Islamic Relief と ACT 連盟のように、信仰基盤の団体と教会関係の機関が運営的に合併してきています。また同時に、信仰を持つ女性たちが、合同メソジスト教会や Mothers Union、その他の特定の教派グループの活動を通してさらに女性をエンパワーしようとキリスト教基盤／エキュメニカル運動の場で熱心に働きかけるさまも垣間見られます。

さらに、家族と女性の人権の問題に関して、保守的な価値観の増加が見られます。また、解放の神学が女性に性差別・家父長制・抑圧からの自由をもたらすようには見えない一方で、キリスト教の伝統の中で私たちの権利と信仰をともに祝し確保する、フェミニズムの力強い流れが存在します。YWCA 運動は、この力関係・状況を受け入れ、教会および社会の中におけるすべての女性の尊厳とリーダーシップを主張し確保するよりどころとならなくてはなりません。

内部的文脈: 私たちの現実と存在意義を考える

- ・ **深いルーツと広い枝**: 1855 年に設立された YWCA は、女性、若い女性、少女のリーダーシップを構築しコミュニティ・サービスを提供することに注力し続けてきた最古の女性主導団体です。YWCA は、108 カ国に加盟組織を持ち、さらに 19 カ国で組織を構築しつつあります。しかしながら、世界 YWCA もメンバーも、メンバーシップ・財産・資産・プログラムといった運動の価値を正しく示すデータや計り方を持っていません。世界 YWCA 運動全体の成果とキャパシティを把握し、未来に向けた立ち位置を示す情報を得るための包括的・世界的監査は、今まで行われた例がありません。しかし、そのような調査こそが、YWCA 運動が女性や少女たちの生活に地域・国・世界的につながり影響を及ぼすことを可能にする方法なのです。
- ・ **共有する価値**: 世界 YWCA 会則およびその他の方針は、私たちの共有する価値を繰り返し規定してきました。以下のようなものです。
 - 女性、若い女性および少女のエンパワメントを活動の中心に据えること。
 - キリスト教基盤を尊重しつつ、その他の信仰を持つ女性たち、異なる背景をもつ女性たちにも

² Ecumenical Advocacy Alliance, One World Trust のように解散した団体、ICCO kn Actie、EED と Bread for the World のように存続のために合併した団体、ジュネーブからシュトゥットガルトに移転した World Communion of Reformed Churches やマレーシアに移転した世界スカウト機構のように拠点と運営方法を変えた団体、YMCA や ACT 連盟のように主要な役割を脱中心化した団体などがあります。また、多くの加盟 YWCA が解散や運営再編をおこない、幾つかはアイデンティティを変えつつあります。

開かれていること。

- 多様性を尊重し、人権理念にある参加する権利、差別されない権利、説明責任に対する権利を支持します。
- 世代間のリーダーシップおよびリーダーシップの共有／分担を実施することを目指し尽力します。
- ボランティア精神を奨励し、共同的で互いを尊重するパートナーシップ(協力関係)に取り組みます。
- 私たちは、誠実な運営と、適切な組織管理(ガバナンス)を保証し、すべてのレベルにおいて説明責任を果たすための基準を打ち出し、同時に、YWCA 運動の歴史、多様な状況や地域における YWCA の活動に価値を置きます。

しかしながら、私たちは、私たちの価値観と実際の活動との間の隔たりに直面し続けています。私たちは、キリスト教の伝統に対する私たちの献身と、すべての人の権利と尊厳を守るための努力との間でせめぎあいを経験しています。私たちは「インクルーシブ」であると言いますが、場によっては、先住民の女性、マイノリティ女性のグループ、物質的貧困の中で暮らす女性たち、性的指向の異なる女性たち、障がいを持つ女性などが十分に参加できていない状況もあります。ノルウェー・スタヴァンゲルでの世界 YWCA 総会で、「組織運営における若い女性の役割を拡大する」という決定をしたにもかかわらず、多くの YWCA は真に世代を超えた組織になるのに苦心しています。加えて、世界 YWCA は 2007 年に「適切な組織運営と説明責任の基準(SGMA)」を採択したにもかかわらず、多くの加盟 YWCA が、組織運営の実施、引き継ぎのマネージメント、および運営委員会と理事会との関係性などで苦心しています。

- ・ **私たちのアプローチ:リーダーシップ、サービス、リーダーシップとアドボカシー:** YWCA の根幹の目的は、女性と少女のリーダーシップを養成し、正義・平和・自由・健康・環境への配慮ある世界を構築するため共に働くことです。私たちの運動の使命と役目により、YWCA 運動を先導する有能でエンパワーされたリーダーが得られます。しかしながら、私たちの目標を達成し、サービスやプログラム、効果的なアドボカシーを実施するためには、計画を持って他団体と連携する必要があります。私たちの YWCA は、女性達の実際的・緊急的ニーズへの対応と、不平等、差別、疎外、貧困の根源とその根底にある原因を問うこととのバランスを見いだす必要があります。

今日、諸加盟 YWCA も世界 YWCA も、幅広いリーダーシップ・トレーニングを提供しています。しかしながら、トレーニングのアプローチ、リソース、ツール、カリキュラムを有効に共有していません。世界中の YWCA は 100 年以上にわたって、幼年期教育、Y ティーン、若い女性のリーダーシップ、メンターシップ、アドボカシー、テーマに基づくトレーニングなど、教育／リーダーシップ・プログラムの提供に尽力してきました。YWCA はまた、公式の学校や職業訓練施設の運営にも経験を持っています。YWCA 運動の広大な知識・リソースの基盤を活用し、そのリーダーシップ養成・トレーニングを位置付け直すことには大きな可能性があります。

YWCA 運動はまた、アドボカシーへの制度化されたアプローチを必要としています。地方・地域・世界的レベルにおいて制度的・政策的変化を起こすために強力に発信をおこなう YWCA がある一方、それをしていない YWCA もあります。そのため、YWCA 運動は、地域を超えて一貫性を持って取り組むことも、またすべての女性に影響を及ぼす世界的な問題、例えばヨーロッパと米国における経済危機、アフリカにおける資源の軍事的搾取、パレスチナの占領、日本が提起している非核化などに対して、強く声を上げることもできてきませんでした。YWCA 運動は、その数の力を活用して、広範な分野に関わり、つながり、もつとずっと大きなアドボカシー的影響を及ぼす可能性を持っています。

- ・ **ボランティア会員制とサービス提供:** 伝統的に、YWCA は女性が主導するボランティア会員組織として活動してきました。各加盟 YWCA の 4 年間アンケートや協議から、現在多くの加盟 YWCA において会員が減少してきており、また若い女性や少女の参加を得、また維持する上で、困難に直面していることがわかります。多くの YWCA 組織が、献身的で強い帰属意識を持つ、長年にわたって自分の時間と能力を YWCA のために傾けてきたシニアのメンバーのおかげで存続している状況です。YWCA 運動は今、重大な局面に立っています。私たちには、変革、新たな考え、新たなアプローチが必要です。組織を未来へと導くような、すべての世代にわたる女性たちの生き生きした会員組織をつくらなくてはなりません。すべての加盟 YWCA が、一人ひとりの女性と少女を、運動の本質を自らのものとし、定義し、形づくっていくメンバーと位置付けるよう確保する必要があります。私たちはまた、組織の中での男性の役割について協議する必要があります。これらの、アイデンティティと持続性に関する重要な課題について、YWCA 運動が共通のアプローチと視点を保持することは不可欠です。
- ・ **変化する世界の中での持続性:** すべての加盟 YWCA、また私たち全員が、YWCA 運動が会員組織、組織運営の質、収入確保、ファンドレイジングなど、複数のレベルにおいて持続性を確保するために共に努める必要があります。YWCA のモデルは、資源、専門性、キャンペーンを共有する一つの連邦であり、そこでは、メンバー間に存在する格差は、加盟費の額などの形で認識・対応されます。多くの YWCA は、学習センター、フィットネス/健康維持プログラム、ホテルやホステル、旅行社のようなホスピタリティ・サービスなど、さまざまなサービスの提供を中心とする営利活動を運営しています。その他、別の形で投資や寄贈財産を持つ YWCA もあります。しかし、多くの YWCA が、組織を維持しプログラムやサービスを提供するための無拘束資金を得るのに苦労していることも私たちは知っています。非常に多くの YWCA が、運営やプログラム費用をファンドレイジングに頼っており、外部資金が減少するにつれ、多くの加盟 YWCA が重圧を感じています。同時に、私たちは、例えば既存の資産を運用するための知識など、サービスや知識を互いに共有することによって、内部的効率をさらに構築することができます。

以上が、2035 年にむけたビジョン構築(エンビジョニング)プロセスを通じて明らかになった、重要な強み、チャンス、弱点、および脅威です。これらの要素は、私たちが自分の特定のコミュニティの現実に応え続けながらも、同時に共通の目的のために協働するよう勇気づける、大胆で変革的な目標の必要性を示しています。

ビジョン構築(エンビジョニング)プロセスは、以下の世界 YWCA のビジョン、目的、指針となる価値を再確認

しました。しかし、YWCA 運動は、自らに根本的な変化を可能にし、組織としての存在意義を確保し、持続のための強固な基盤をもたらす、大胆で変革的な目標を求めました。

3. 私たちの大胆で変革的な 2035 年への目標

私たちの大胆で変革的な目標は、私たちが 2035 年までに獲得したい全体としての成果と、また私たちがどのような組織になりたいかを、両方定義するものです。私たちはまた、それぞれの加盟 YWCA が、各自のプログラムやサービスを実行しつつ、それぞれの現実に対応する必要があることも理解しています。

世界 YWCA 運営委員会は、共通の大胆で変革的な 2035 年への目標として以下を決議し、第 28 回世界 YWCA 総会での採択を提案する。

2035 年には、1 億人の若い女性と少女が、正義とジェンダー平等を実現し、暴力・戦争のない世界をつくるため権力構造を変革し、すべての女性にインクルーシブで持続可能な YWCA 運動を先導します。

- ・ **2035 年は、今日この日からちょうど 20 年後を指します。** 第 34 回世界 YWCA 総会の年です。この世界総会で、各加盟 YWCA は、共同でこの目標の達成度をレビューし、その達成を祝うでしょう。これは大きな節目の年です。この年、国際連合は「持続可能な開発目標 (SDGs)」のレビューを完了します。その「SDGs」の目標には、2030 年までにジェンダー平等を実質的に実現すること、未成年の少女や若い女性が、教育、医療、経済的機会へのアクセスを得ることで、エンパワーされ、変革し、学ぶことができるよう確保することを含みます。
- ・ **1 億人の若い女性と少女。** YWCA は、変化の担い手であり、私たちの運動に変革をもたらすリーダーである若い女性と少女、1 億人に影響を与えます。1 億人とは、世界の若者の人口の 10% です。2035 年には私たちは、これらの若い女性と少女をエンパワーし、その権利が尊重され、声が聞かれるよう確保します。私たちは、若い人たちが変革を行い、ソートリーダーシップ³、創造性、人間の可能性と尊厳を高めるような経済的・社会的・政治的モデルによって現状に挑戦する様子を思い描きます。彼女・彼らは、テクノロジーの持つ力を活用し、開発分野で、また、すべての人のために正義、ジェンダー平等、人権がある世界の構築において、共に創造する者となるでしょう。
- ・ **権力構造を変革する。** YWCA 運動は、女性に対する不平等、権利の侵害、周辺化、疎外、加えて彼女たちが様々なチャンスにアクセスすることを阻害する障壁を認識し、それに取り組む必要があります。今、家父長制の中で、そして家父長制を通じて表現されている社会的・経済的・文化的・政治的力関係を変革していくことは極めて重要です。この変革は、人種・階級・カースト・性別の交差など、特権と既得権益に関する諸課題を考える WCA 運動の内外での全体的な力の分析と改革を必要とします。

³ Thought Leadership: 特定の分野において、先見性、革新的なアイデア、そのアイデアを現実にする実行力、周囲に伝える力などを持ち信頼を得るリーダーシップ。

- 正義。**社会的・経済・ジェンダー・気候に関する正義は、偉大な癒し、和解、解決の行いです。2035年には、女性と少女が広範な形態の正義にアクセスし、その恩恵を得るようエンパワーする仕組みが極めて重要になるでしょう。これは、女性に対する暴力を根絶する私たちの活動という強固な基盤の上に構築されます。それは、地域社会が紛争や戦争に見舞われているときに平和をつくる助けとなり、人びとが傷つけ合っている時にはそのような争いを止めるでしょう。正義と癒しを求めることは、私たちのキリスト教基盤の精神の一環です。多くのYWCAがモットーとしている言葉のとおり、「愛によって互いに仕えなさい」ということです。
- ジェンダー平等。**ジェンダー平等とは、女性と男性、少年と少女が、平等な権利、責任、機会を享受するということです。また、女性と男性、両方にとっての利益、ニーズ、優先順位が、「女性」「男性」2つのグループの中における多様性を認識しつつ、それぞれ検討に入れられるということです。女性差別撤廃条約(CEDAW)は、女性差別を、「性に基づく区別、排除又は制限であって、政治的、経済的、社会的、文化的、市民的その他のいかなる分野においても、女性(婚姻をしているかいないかを問わない)が男女の平等を基礎として人権及び基本的自由を認識し、享有し又は行使することを害し又は無効にする効果又は目的を有するもの」(第1条)と定義しています。YWCAのプログラムやサービスは、しばしば、性・ジェンダーに基づく差別の事例に直面し取り組んでいます。しかしながら、「2035年への目標」は、YWCAが協力団体と協働して、女性と男性とが平等に尊重され、機会を得、意志決定に参画することができる世界に変えていくため活動することを明示しています。
- 暴力と戦争のない世界。**これまで100年にわたり、YWCAは、暴力を阻止し、若い女性と少女に安全な場を提供し、構造的暴力に立ち向かい、暴力のサバイバーを支援するプログラムにより、強力な実績を重ねてきました。「2035年への目標」は、この活動を維持するとともに、私たちの家族、コミュニティ、国の中で、また多様な集団に属する人びとの間で、平和を構築することを目指しています。YWCAの強みは、暴力と戦争のない世界の実現に貢献する、権利基盤アプローチをとった経済的／教育関連プログラムの提供にあります。私たちの「目標」は、YWCA運動が安定した国々、戦争状態にある国々、不安定な国々や紛争後の状況にある国々、それぞれの場で対応することを可能にします。
- 持続可能性。**YWCAは、組織運営、収入確保、パートナーシップ、および資源・資産のマネジメントへのアプローチに関して、持続可能な組織となる必要があります。YWCAが1億人の若い女性と少女に影響を与え、これからの20年間活動を続けるためには、YWCA運動は豊かな資源を確保し適切に運営され、変化に対応しテクノロジーを活用するだけの柔軟性を持つ必要があります。
- 信仰と権利に基づく。**YWCA運動は、そのキリスト教基盤と歴史を尊重します。宗教と信仰の多様性という文脈において活動し、そのプログラムは信仰や宗教に基づく差別をすることなく、すべてのコミュニティを支援します。YWCAはさらに、そのキリスト教のルーツは、資源であり強みであると認識します。それは、YWCA運動が女性のエンパワメントを推進する上でこのアイデンティティを活用し、また信仰の中における家父長的な要素や慣習を変えていくことを可能にします。同時に、YWCA運動は、創り主に似せて創られたすべての人間の基本的尊厳と、すべての女性、若い女性および少女の権利を守るという根本的義務を大切にしています。
- 運動。**世界YWCAは、加盟組織一つひとつよりも大きな全体・総合的影響力を持つ、連合体です。共有する価値、共通の目標と志を持ち、公益のために協力できます。YWCAは、この大胆な目標を実行するための認識、規範、信念、態度、組織運営の仕組み、ならびに持続可能性モデルを共有しています。YWCAはさらに、ジェンダー正義と女性の世代を超えたリーダーシップのための社会運動であり、その財産と資源のすべてを、

共有の目標達成のために使います。

- ・ **すべての女性にインクルーシブ**: YWCA は、人種、民族、健康状態、肩書き、階級、カースト、障がいの有無、先住民族、性的指向、ジェンダー・アイデンティティ、信仰、そのすべての多様性を包含します。

4. 私たちの 2035 年への目標を実現するための計画的行動 (HOW／どのように)

4.1 若い女性と少女のエンパワメント、権利、リーダーシップを促進し、そこに投資する

世界 YWCA および諸加盟 YWCA は、1 億人の若い女性と少女が権力構造を変えていくことを可能にするため、以下を含む多くのアクションを実行します。

- ・ 若い女性と少女が、ボランティアやリーダーとして、または運営委員や職員として組織運営を担う形で、加盟 YWCA に参加するようにし、またその参加を維持する。
- ・ 若い女性と少女に影響を与える課題を優先して取り組むよう、世界 YWCA および個別の加盟 YWCA のプログラム優先順位や発信内容を転換させる。
- ・ 教育、経済的エンパワメント、テクノロジーに関するより強力なプログラムに投資することで、若い女性たちが変革の担い手として必要な知識・スキル・ツールを得て社会的・経済的にエンパワーされるようにする。
- ・ オンラインを含め、世界 YWCA 運動全体のさまざまなレベルで計画・取り入れ・実施されるカリキュラムによる、若い女性と少女のためシステム化されたリーダーシップ・トレーニング
- ・ 強靱なモニタリング・評価基準と、目標の達成度を測るためビッグデータを使用するプロセスを設立する
- ・ この大胆な目標を実施するため、他の若者、女性、信仰、政府、メディア、民間セクター、多元的／二元的組織、フィランソロピー団体などとの計画あるパートナーシップを活用し、確保する。

4.2 世代を超えた運動の中で変革を起こす

YWCA は、世代を超えた運動であり、少女や若い女性としての経験は一生にわたり影響を及ぼすことを認識しています。私たちはまた、多くの認知を得た、世代を超えたメンターシップが内在する、学びの団体でもあります。2035 年にむけた大胆で変革的な目標を実現するには、以下のように、世代を超えた運動を強化する必要があります。

- ・ 運動全体にわたり、すべての女性がアドバイスを提供し目標達成に向けた努力に相互に貢献できるような、メンターシップ・モデルを構築する
- ・ 女性たちが、年齢を重ねるにつれて運動の中で立ち位置を変えつつ、自分たちの課題に対応するプログラムに積極的に関わり続けるとともに、適切な仕組みの中で若い女性と少女の可能性を延ばし支援できるようにする
- ・ すべての女性に、リーダーシップの共有／分担に関するトレーニング、ならびに若い女性のリーダーシップの機会をつくり支援するための後継マネージメントを提供するよう確保する。
- ・ 特に疎外され周辺化されたコミュニティの女性たちのため機会を提供／創造する。
- ・ 全ての年齢の女性たちの中でのリーダーシップの共有／分担を尊重しつつも、運営委員会の 25%を若い女性にするという会則の規定を再検討し、50%まで拡大する可能性を検討する。

4.3 YWCA 運動の持続可能性を構築する

持続可能な運動を構築することは、この目標の鍵となる部分であり、私たちが若い女性と少女に及ぼそうとしている影響を達成するため必要不可欠な事項です。このことは、YWCA が、運動の中における考え方と行動において、全体としての大胆な変化をすることを要求しています。目標を達成する助けとなるアクションは以下のとおりです。

- ・ YWCA 内部のメンバー、およびビジネス・金融・慈善事業・開発セクターからの外部有識者からなる財政的持続可能性に関する国際的専門家／諮問パネルを設置する。
- ・ 世界全体の YWCA の財産と価値をはかるためビッグデータを収集・活用する方法を構築し、YWCA 運動の財政状態運動の現実的イメージが得られるようにする。これは、個別の加盟 YWCA それぞれの協力意志が必要な、大きな取り組みである。
- ・ 運動全体に対し、高度でシステム化されたトレーニングを提供する、YWCA 国際リーダーシップ機関を設立する。この機関は、共通のカリキュラムを持ち、YWCA や協力機関の内部に存在する高いトレーニング能力を活用する。複数の場所に設置され、異なる年齢層にトレーニングを提供し、オンライン研修も提供する。大学や教育機関のコースへの正式認定を確保できれば、YWCA メンバーのキャリア・チャンスを大きく拡大すると考えられる。
- ・ 運動全体で、共通するサービスを最大限に活用する。ホテルやホステル、旅行事務所、職業トレーニングセンターや学校などの収益事業に共通のブランドを持たせる。これには、YWCA 全体で一定の基準／サービスの質が一貫して守られるように確保する努力が必要となる。
- ・ 世界 YWCA はまた、共通目標の実施のため無拘束資金を得るため新たな収益サービス事業の可能性を探っています。例えば、不動産に関する顧問サービス、または、YWCA のサービスや施設の利用者が換金可能なポイントを貯めることができるシステムの考案などです。

4.4 世界 YWCA 運動の計画的アクション

- ・ 2035 年、世界 YWCA は国内および国境を越えた柔軟で革新的なパートナーシップを持つ会員基盤の組織であり、加盟 YWCA や協力団体はそれぞれ、特定のモデルに沿って会員を増やし運動を動かしています。
- ・ 世界 YWCA のブランドは、グローバルな声、リーダー、政策提言者、影響の源、そして女性の権利とリーダーシップを求める人がまず第一に向かう先となる団体になります。
- ・ 世界 YWCA は、若い女性と少女からなるグローバルな諮問委員会を設置・任命し、世界 YWCA 運営委員会と世界 YWCA 総会と直接連絡を取りつつプログラムに助言し先導するようにする。
- ・ 世界 YWCA「変革の力基金」は、2035 年の目標を前進させる計画的プログラムを優先的に扱う。
- ・ 世界 YWCA の「計画と方策の枠組み」と「運営計画」は、2035 年への目標を達成するための主要アクションに注力し、スタッフ・レベルで若い女性コーディネーターを置く。
- ・ 加えて、世界 YWCA 運営委員会に対し、世界 YWCA 事務所の構造、所在地、その他の関連する要素を検討して 2019 年世界 YWCA 総会に報告する任務を託すよう、世界 YWCA 総会に要請する。

5. 参加型モニタリング・評価計画

YWCA 運動が、その目標達成のための道筋を外れないよう確保するためには、モニタリングが必要不可欠です。毎回の世界 YWCA 総会は、重要な節目であり、運動全体でビジョンの主要点を評価しレビューするためのグローバルな方針協議の場です。

世界 YWCA の 4 年計画は、2035 年ビジョン構築を世界的に実施するための運用的アクションの全体像を示します。加えて、個別の加盟 YWCA は、2035 年にむけたビジョン構築の主要な要素を自らのプログラムに導入し、自らの運営委員会が、これらの公約の実施をモニターする責任を持つよう確保します。

世界 YWCA は、計画期間中、計画と方策の枠組みに示された主な指標（例えば世界的な取り組みの現状）についての毎年の報告を含め、各加盟 YWCA に定期的に進捗を報告します。世界 YWCA ウェブサイトに設置する会員専用ページを含めた電子的手段によって情報収集・提供を行います。

世界 YWCA 総会で行われた協議と決定により、詳しいモニタリング・評価計画が検討されます。世界 YWCA 運営委員会は、主要な指標の定期的検討を含めた運営レベルのモニタリング計画を策定します。各加盟 YWCA は、2035 年までの目標の進捗をはかるため選定される中心的な指標に関する年 2 回のアンケートという形で参加します。加えて、運営委員会は、世界総会と世界総会との期間中も、YWCA 運動が目標への道を外れないよう確保するため、積極的に行動し、状況に対応していきます。

「未来とは、私たちが向かっているどこかの場所なのではなく、私たちがつくるものです。道は見つけるのではなくつくるものであり、つくる過程が、つくり手と行き先の両方を変えていくのです」

- John H Schaar

ドラフト・チーム

- ニヤラザイ・グンボンズバンダ 世界 YWCA 総幹事
- ジャン・キャンペル 2035 年にむけたビジョン構築のための世界 YWCA コンサルタント
- リネア・ハカンソン 2035 年にむけたビジョン構築のためのコーディネーション・オフィサー、コンサルタント

助言:

ピン・リー 2035 年にむけたビジョン構築のための世界 YWCA グローバル親善大使

編集:

キャスリーン・マクシメック 世界 YWCA 広報主任

付録 A:用語集

2035年にむけたビジョン構築プロセス(Envisioning 2035)— 2011年世界YWCA総会で開始されたプロセス。世界YWCA会則に記されている世界YWCA運動のビジョンと目的を発展させ、2015年から2035年まで世界YWCA運動が全体としてめざす成果と活動を規定することを目的としている。

ジェンダー平等(Gender equality) 女性、男性、少女、少年の間で平等な権利、責任、機会がある状態。ジェンダー平等は「同一」であることは意味しない。

目標(Goals) 目標は、運動がとるべきステップを、質／量ともに規定する。正しい方向に移動していることを教えてくれる標識のような物である。具体的に測ることができ、「いつ?」「どれくらい?」といった質問にも答えられる物である。

組織運営(Governance) 組織の中で、役割と説明責任を規定する規則、施策、プロセス、および構造の設置。

人権(Human Rights) 人権とは、国籍、居住地、性別、国家・民族的出自、肌の色、宗教、言語、その他どのような立場にあるかに関わらずすべての人に生まれながらに備わっている権利。私たちは皆、差別なく平等に、自らの人権を保障されている。これらの権利はすべて互いに関わり合い、支え合い、不可分です。

インクルーシブ(Inclusive) 帰属感を与えるさま: 尊重されている、ありのまま大切にされている、周りが支え大切にしてくれるエネルギーを感じ、そのために自分も最大限の貢献ができる、と感じられるさま。YWCAは、人種、民族、健康状態、肩書き、階級、カースト、障がいの有無、先住民族、性的指向、ジェンダー・アイデンティティ、信仰、そのすべての多様性を包含します。

リーダーシップ(Leadership) 個人のグループまたは組織を、前向きな変革にむけてエンパワーし、協働し、励まし、メンタリングを提供すること。YWCA運動の中では、リーダーシップは共有され、インクルーシブであり、変革をもたらす物です。

私たちの2035年への共通目標(Our Collective 2035 Goal) 2035年までの、世界YWCA運動全体としての成果目標

平和(Peace) 正義、健康人間の尊厳、環境正義および参加と享受を含めたすべての人権の実現。他者と調和して生きる自由。

力(Power) 個人の活動、および共同の取り組みへの貢献により、他者のふるまい、あるいは物事の成り行きに影響を及ぼす力または能力。

権力構造(Power structures) 政府または他の強い影響力を持つ組織を支配し、他者に影響を及ぼすシステムを構成する集団。

持続可能な開発(Sustainable development) 人間の開発目標を達成すると同時に、経済・社会が頼っている自然資源と環境システムのサービスを確保し続けること。

持続可能性(Sustainability) 長期的に持続することができる力または能力。持続可能性は、少ない資源を再生することで得られる。

変革する(Transforming) 女性に対する不平等、人権侵害、周辺化および疎外の根源的原因に取り組み、それを変えていくため尽力すること。

若い女性(Young Woman) 30歳以下の女性

ビジョン(Vision) ビジョンとは、運動が今後何を実現したいかに関して、将来に求める最も望ましい状態(思い描く姿)を明確にし、運動の長期的成果のための指針・原動力となります。

付録 B: プロセスと方法

世界 YWCA 運動運営委員会が、2035 年にむけたビジョン構築プロセスの方針的リーダーシップを取りました。世界 YWCA 総幹事の主導のもと、世界 YWCA 事務局はコンサルテーション・プロセス、文書とフィードバックをコーディネートし、文書を起草しました。各加盟 YWCA は、アンケート、ミーティング、電話会議に参加し、文書草案へのフィードバックを提供し、専門的見地や経済的支援を提供し、ラウンドテーブルを主催するなどして協力しました。

世界 YWCA は、2012 年、台湾 YWCA のピン・リーを 2035 年にむけたビジョン構築プロセス親善大使に任命し、このプロセスを支え先導する役割を委任しました。ピン・リー大使は、世界 YWCA 運営委員会、事務局、加盟 YWCA ならびにコンサルタントと協働して任務を遂行しました。世界 YWCA はまた、コンサルタントとしてジャン・キャンベル、リネア・ハカンソンをフルタイムのコーディネーターとして任命し、プロセスの支援を得ました。協議期間中は、他の協力団体が、専門的助言や経済的支援を提供しました。加えて、相談役、および世界 YWCA 運動への助言の役割を担うため、多様なメンバーからなる作業部会が設置されました。

2011 年の世界 YWCA 総会に続いて、運営委員会はアプローチとタイムラインを示した「コンセプト・ノート」を採択しました。それ以来、2035 年にむけたビジョン構築プロセスは、世界 YWCA 運営委員会の常設議題となりました。ビジョン構築プロセスの一環として、以下のような主要な対話の取り組みや協議をおこないました。

- i. YWCA 運動内部および他団体における歴史的傾向を分析した (2012-2013)
- ii. 加盟 YWCA との協議
 - a. 加盟 YWCA へのオンライン・アンケート (2012-2013)
 - b. 2014 年 11 月に最初の作業文書を発表、2015 年 2 月末までのコメントを募集
 - c. 2015 年 4 月、加盟 YWCA に文書案を提示、2015 年 6 月までのコメントを募集
 - d. 2015 年 7 月～8 月、可能な限り多くの加盟 YWCA と個別・またはグループで電話会議を行った
 - e. ウェブサイトおよびソーシャルメディア上で、毎月設問を掲載し、E ニュースレターで配信し、Google ハングアウトを行った
- iii. グローバル・ラウンドテーブルの開催
 - a. 2013 年・台湾、女性の権利について
 - b. 2014 年・フィンランド、持続可能性について
 - c. 2014 年・コロンビア、組織運営、変革をもたらすリーダーシップについて
- iv. 世界 YWCA が開催した諸イベント
例：
 - a. 国連女性の地位委員会 (2013 年、2014 年、2015 年)
 - b. 若い女性のリーダーシップ会議 (2013 年、タイ・バンコク)
 - c. 女性に対する暴力に関するトレーニング会議 (2013 年、韓国・ソウル)
 - d. 性と生殖に関する健康と権利に関するトレーニング会議 (2013 年、ダル・エス・サラム)
 - e. カリブ海地域/北アメリカ・若い女性リーダーシップ会議 (2013 年、バルバドス)
 - f. YWCA 太平洋地域・組織運営/リーダーシップ会議、2014 年
 - g. アフリカ・ユニオン・サミットにおける YWCA アフリカ会議 (2014 年・2015 年)
 - h. ヨーロッパ YWCA 地域会議 (2014 年、ドイツ)
 - i. バルカード・ナリングとジャン・キャンベルを招聘した年次職員研修 (2014 年・2015 年)
- v. 2035 年にむけたビジョン構築作業部会・月次ミーティング